

新緑が映える、過ごしやすい季節になりました。新年度が始まって1か月が経ち、新しい環境にも少しずつ慣れはじめた頃でしょうか。

産医大小児科では、3年目の先生方が、頼もしい成長を見せてくれており、大変心強い限りです。これから小児科に関わっていく予定の先生方や学生さん、熱意ある先輩方が丁寧に指導してくれますので、安心してください。

さて、今回の小児科通信では、医局の行事、医局員の先生方の学会参加予定などを掲載しています。ぜひ、ご覧になってください。

～4月・5月の医局行事報告

4月18日-20日 第128回日本小児科学会学術集会

ポートメッセ名古屋で開催されました。深野教授が血友病のセッションで座長をされました。今年は参加者が少なかったため、来年は皆さんで参加しましょう！

4月小児科医局歓迎会

新たに小児科医局にお迎えした佐藤先生、徳永先生、藤本先生、山口先生を歓迎する会があり、「まつ丸」で行われました。小児科医師や医局秘書さん、研修医の先生など多くの先生が参加してくれました。和気あいあいとした雰囲気の中、先生方の人柄を知ることができた良い機会になりました。これからも、小児科医局員として、末永く、よろしくお願いします。



トリプルルック三人組！
満面の笑みです！

4月感染・免疫グループのセミナー

感染・免疫グループから「小児結核診療とBCGワクチンの現状」というテーマでセミナーが行われました。BCG 予防接種後の副反応に対する対応方法や小児結核対策のための知識をupdate することができました。

5月 神経グループのクリニカル・カンファレンス

神経グループから「ここが知りたい！けいれん重積とてんかん治療」というテーマで行われました。けいれん重積の対応からてんかんの診断と治療開始までの診療の手順を丁寧に説明していただきました。学外からも多くの先生が参加され、けいれん診療への知識を深めることができました。

～5・6月の医局内イベント～

学生さんの中には、小児科通信を読んで学会参加してくれた方もいらっしゃいます！興味のある方は、ご連絡をお待ちしております★

5月●日 18時～ 血友病センター担当のセミナー

6月●日 18時～ 新生児グループセミナー

6月●日 18時～ 内分泌・代謝グループのセミナー

★クリニカルカンファレンスとセミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～6月開催予定の学会～

6月7日 第16回 KOCS 小児リウマチ研究会（福岡・web） ○発表者、◎座長

○小松 静野先生 伊藤 琢磨先生

6月14日 第529回小児科学会福岡地方会（福大メディカルホール）

○山口 結希先生 ○高橋 光先生 ◎永汐 孟先生

6月27日-29日 第47回日本血栓止血学会（ウインクあいち）

○宮地秀途、○白山理恵

～論文掲載情報～

1. Kanda R, Kawamura M, Kojiro M, Fujino Y, Hoshina T. The effectiveness of the clinical pathways for children hospitalized for the treatment of acute asthma exacerbation. *Pediatr Int*. 2025 Jan-Dec;67(1): e70073. doi: 10.1111/ped.70073. PMID: 4036584
2. 白山理恵. 診断までに時間がかかった von Willebrand 病～当院の症例を通して～. *日本検査血液学会誌*. 2025

～お知らせ～

2025年6月8日(日)13時30分より、福岡市天神のFFGホールにて、全国小児がんチャリティコンサートを開催いたします。本コンサートは、一般社団法人 旭くん光のプロジェクトが主催、日本小児がん研究グループ(JCCG)が後援しております。

<https://asahi-hikari-pj.com/fukuoka2025/>

「101 回目のプロポーズ」で知られるピアニスト、作曲家の西村由紀江氏のご協力により実現し、今回は、全日本合唱コンクール全国大会に3年連続出場している北九州市立日明小学校合唱部にご出演いただきます。

<https://kbc.co.jp/gyutto/detail.php?cdid=40739>

チケット代の一部は小児がんの子どもたちの支援に充当されます。

ご興味のある先生や学生さんがおられましたら、ご参加をお待ちしております。

音楽を通じて、小児がんについての理解と地域社会とのつながりを深め、
がんと闘う子どもたち・家族の未来が輝くことを願って

第2回
全国小児がんチャリティコンサート in 福岡

旭くん光のプロジェクト

西村由紀江

西村由紀江(作曲家・ピアニスト)

日本を代表するピアニストであり、作曲家としても多くの作品を
世に送り出しています。3歳でピアノを始め、小学生時代から
ヤマハジュニアオリジナルコンサート(JOC)に参加し世界各国を演奏旅行
マエストロや一流オーケストラとも共演し絶賛を博しています。
美しいメロディーと繊細な表現力が特徴で、聴く人々の心に深い感動を与えます。
1980年代から活動を始め、数多くのアルバムをリリース。
「101回目のプロポーズ」「子ぎつねハレン」などドラマ・映画にも出演。
その才能を発揮しています。
また、音楽教育にも力を入れており、若い音楽家の育成にも貢献。
多くのファンに愛され続ける彼女の演奏は、常に新たな感動を生み出します。

2025年6月8日(日)
開場 13:00 開演 13:30
福岡県 福岡市 福岡銀行FFGホール
一般 3,500円 学生 2,500円
上記金額には、チャリティ代金分として
一般1,000円 学生500円が含まれています

チケットのお求めは
以下のチケット公式サイト
または「e-plus」で購入できます
<https://eplus.jp>
<https://tshk.jp/live/yukihiro/>

一般社団法人「旭くん光のプロジェクト」が企画するチャリティコンサート。
今回は、感性豊かな演奏と作曲で多くの人々に感動を与えるピアニスト 西村由紀江さんをお招きし、
少年作曲家、加藤ゆのやしく感動ある作品を始め、福岡にゆかりのある楽曲や
北九州市立日明小学校カンパニーとの合唱、フルート奏者の山田明子さんとコラボレーションをお届けいたします。
コンサートの収益は、NPO法人 日本小児がん研究グループ・認定NPO法人にこそま九州へ寄付させていただきます。

このコンサートは、小児がんの子どもたちが元気に回復し、ご本人もご家族もずっと安心して過ごして
いけることを願い、開催いたします。
「小児がん」とは子どもがかかるがんの総称です。「白血病」や「脳腫瘍」など、大人もかかるがんもあれば、
「神経芽腫」など子どもに特有のがんもあります。
その種類は手帳にわたり、年間約2,500人の子どもたちが新たに小児がんと診断されています。
長期入院での治療が必要となることが多く、残念ながら小児がんは子どもの病気の原因の1位です。しかし、近年小児がん
治療は大きく進歩してきました。
数少ない治療方法をオーストラリアで研究しているのが、全国の小児がん専門医で組織している、NPO法人
日本小児がん研究グループ(JCCG)です。ただ、活動資金は潤沢ではありません。また、治療後も長い未来を生きる
子どもたちには、幅広い、長期的なサポートが必要です。
皆様のご理解と協力が、小児がんの子どもたちとご家族の支援につながります。

主催：一般社団法人 旭くん光のプロジェクト ・ 全国小児がんチャリティコンサート in 福岡 実行委員会
共催：認定NPO法人 にこそま九州
協力：NPO法人 日本小児がん研究グループ(JCCG)
後援：福岡県教育委員会

北九州市立日明小学校合唱カンパニー
のスペシャル合唱団が
加藤ゆの「くじらぐも」をはじめ
LIVE EMPOWER CHILDRENのテーマ
「My Hero～奇跡の唄～」を披露します

九州を拠点にソロでの演奏活動と
フルート音楽の普及と発展に貢献されている
山田明子さんと西村由紀江さんの
デュオ演奏も予定します

にこそま九州

HP: <http://asahi-hikari-pj.com/fukuoka2025/>
お問い合わせ: fukuoka2025@asahi-hikari-pj.com

～新しい医局秘書さんのご紹介～

小児科資料室に5月から勤務しています、増田と申します。子供たちと関わる仕事をしていたので、間接的ではありますが、子どもたちに関わる仕事につけてご縁を感じております。
どうぞよろしくお願いいたします。



～医局員からのメッセージ～

専攻医と家庭の両立 ～一例のご紹介～

小児科修練医2年目の小松 静野と申します。テーマに悩みましたが、修練医1年目に出産し、1歳児の子育てをしながら研修させていただいている者として、現況を共有させていただきます(相手の職業・診療科、祖父母のヘルプを得られるかによりかなり生活は変わると思います。夫が病理診断科、祖父母居住지가遠方、という一例です)。進路選択に悩む方の一助になれば幸いです。

平日は、院内保育園の送り迎えは基本的に夫担当です(夫が当直の時は私が定時退勤させていただいております)。帰宅後は夕食・お風呂となりますが、最近は寝つくのに数時間かかることや、夜泣きもしばしばです。夫のアップルウォッチが90dBの騒音警告を鳴らす中、鼻水だらけで号泣するわが子をあやしなから、やること色々あるのにな…と遠い目をすることもあります。休日は、当直でなければdutyはありませんので、家族での時間を過ごすことができます。家事はお互いができることをやっていく方針ですが、私の惰性から夫に頼ることが多く反省しています。

慌ただしいように思われるかもしれませんが、仕事面でのメリットもあります。小児科では子育てが仕事に直結します。私の体験の範囲内ではありますが、受診時の両親の心配や、退院後の生活、産後の母の疲労度などを想像しやすくなったと思います。

小児科には子育てをされている先生方も多く、お迎えや急な早退にも理解を得られます。わが子の健康相談もできます。自宅での可処分時間が少なく、以前のように勉強時間を好きなだけとることができないことに焦りもありますが、先生方の丁寧なご指導やご配慮をいただきながら、日々自分なりのペースで勉強が続けられています。今後も子供の成長に伴い、仕事と家庭の両立に新たな悩み事が出現するかもしれませんが、都度、上級医の先生にご相談しながら仕事を続けたいと思っています。子育てに限らず、人生において、いつどのようなライフイベントが発生するかは誰にもわからないので、まずは自分の興味のある診療科に飛び込んでみられると良いと思います。

最後に、仕事と私生活の両立の問題が、所謂「ママ女医」と表現されるような性別の話ではなく、「甲」「乙」と平坦な目線で語ることができるような社会になることを願いながら、筆を置かせていただきます。

小児科通信に関してご意見や感想があれば桑村
(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp) または守田
(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～